

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和成 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	労務管理事業	コード	9104
-------	--------	-----	------

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	工業振興課	作成者	花岡潤
--------	----	-------	----	-------	-----	-----

3 事業概要	目的体系	基本目標	人が集い、にぎわいと活力あふれるまち		
		政策	働く環境の充実	施策	働く環境の充実
		予算科目	労務管理事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	適切な労務管理を促し、労働意欲の向上や能力が十分発揮できる環境設備を促進。岡谷技術専門校などの職業能力開発機関の活用により産業人材の育成を図る支援。	
目的	対象者	事業者（労務管理）、労働者及び求職者
	意図	労務環境の改善等従業員の技術向上、就職にあたってのスキル習得

5 事業の実施内容		*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
<p>○労働相談窓口の設置（巡回労働相談）</p> <p>○働き方改革相談会の開催</p> <p>○岡谷多文化共生推進協議会への参加</p> <p>○岡谷技術専門校利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡谷技術専門校の紹介 ・訓練生募集の協力（ものづくり技術科、機械制御科、FA装置科、離転職者対象訓練） ・在職者向け講座募集の協力（スキルアップ講座） ・民間活用委託訓練事業審査会の協力 ・運営協議会への協力 <p>○雇用調整助成金等制度説明会開催 参加者100名</p>		
前年度の課題への対応	相談窓口のPR活動 技術専門校の継続的なPR活動の実施及び運営協議会を通してこれからの技術専門校のあり方を検討していく。	

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	29年度	30年度	元年度	2年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	巡回労働相談会開催数			単位	回
	実績値	2	7	7	
	*指標の説明	H29より労務対策研修会開催数から変更			
② 成果指標（指標名）	労働相談件数			単位	件
	目標値	10	8	7	8
	実績値	8	15	6	
	達成度	80.0%	187.5%	85.7%	
	*指標の説明	労働相談開催数			
	*目標値の設定方法の説明	過去3年の実績の平均値			

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	5,586	9,920	9,915	10,000
経常経費	5,586	9,920	9,915	10,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
正規職員の人数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20
③ 合計コスト(①+②)	1,605,586	1,609,920	1,609,915	1,610,000
前年度比		100.3%	100.0%	100.0%
財源	1,605,586	1,609,920	1,609,915	1,610,000
一般財源				
内訳	0	0	0	0
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	802,793	229,989	229,988	
前年度比		28.6%	100.0%	
⑤ コストに関する補足説明	活動指標の変更による(～H28：労務対策研修会開催数)			

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 40.0%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 85.7%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)
	<ul style="list-style-type: none"> ○企業が行う働き方改革への対応について、関係機関と連携したサポート。 ○巡回労働相談（南信労政事務所共催）の利用促進。 ○岡谷技術専門学校について認知度不足、充足率の低下。
改善方法	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	<ul style="list-style-type: none"> ○労働相談や働き方改革推進の取り組みについては関係機関と連携を密にしながら、事業主や労働者が利用しやすい方法を常に見直し等協議しながら実施し、市としても広報等により多くの労働者等に向けて効果的に情報発信していく。 ○岡谷技専校との連携を密にしながら、地域産業のニーズに沿ったカリキュラム構築に向けた取り組みを促進し、引き続き広報活動により広くPRをしていく。
改善開始時期	令和2年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	--	---